



RI 第 2 6 1 0 地区

東となみロータリークラブ会報

2012-2013 年度 No. 2 4

事務局 〒939-1635 富山県南砺市福光 7336-4 福光会館 3F

ふくみつ光房内 TEL 0763-53-1333 F A X 0763-53-1334、

inashorc@athena.ocn.ne.jp

2012-2013 年度 会長 河合耕一、幹事 上田昭二

2012-2013 年度 RI テーマ



「奉仕を通じて 平和を」

(田中作次会長)

例 会 記 録

第 1 6 5 0 回例会

平成 2 4 年 1 2 月 1 2 日(水) 井波文化センター

1. 点 鐘 会長
2. 君が代斉唱
3. ソング：奉仕の理想
4. ゲスト：2010-2011 年度国際親善奨学生 楠本郁恵さん(米国立衛生研究所)



5. 米山功労者伝達表彰(三角副会長より)：河合耕一 会長
6. 会長の時間：今週はたくさんのニュースがあった。ロ

ケット発射の北朝鮮、山中さんのノーベル賞受賞式。楠本さんも目指して欲しい、応援したい。衆議院選挙の公示以来、お天気に恵まれない。福野、井波地区を選挙応援で回り、富山の大和の角での応援にも行き、ロータリーのジャンパーを着てお手伝いをして来た。頭に雪を積もらせながら演説される候補者や関係者には誠に人気の毒。この季節の選挙は大変迷惑。浅田会員の南砺市議長就任のコラムが新聞に掲載されていた。兎に角ニュースの多い週であった。しかし、ゆっくりTVを見る暇も無く、窮屈な日々を過ごしているため、左背中の肩甲骨辺りが痛くて、くしゃみもできない。医院に行く予約で一杯であったので「湯来楽」の温泉で誤魔化さざるを得なかった。温まると一時はよくなるが、今朝再び痛くなった。多分、筋を違えたようで、どなたか良いお医者さんがあったら紹介してほしい。

7. 幹事報告：①ニコニコBOX封筒が新しくなり、ロータリー財団や米山の累積金額が分かりやすくなった。②今月は家族月間。来週のXmas 家族会に39名もの多くの参加希望があり、お礼を述べたい。③IM案内の発送準備が整った。高瀬実行委員長から詳細について報告がある。④メイクアップ希望者は、他クラブ例会変更を事務局に確認を。
8. 委員会報告：①IM実行委員高瀬委員長：IMについて各RCへの案内状、プログラム、出席者登録など、20日前後に発送予定。当日の役割は、横山豊介会員

には第2部懇親会の開会挨拶、中島会員はIM司会進行、坂井会員は懇親会司会進行、山本会員は記録(写真やビデオ)、助田会員は会場の横断幕と演題垂れ幕の作成。他の会員には後程。②親睦活動委員会(長谷川委員長):19日、クリスマス家族例会は三楽園で。参加申し込みは大人34人、子ども5人。大人は1人々プレゼント1個持参され、子どもは河合サンタからプレゼント予定。新年懇親会は1月9日(直後、福野の梅月【ばいげつ】に決定)。③出席委員会:本日20名中16名出席(80.00%)

9. ニコニコBOX(SAA:本日5名6000円、その他、R財団2名・米山1名)

河合会長: 本日、米山功労者の感謝状を頂きました。感謝状に感謝のニコBOXさせていただきます。

小西会員: 楠本郁恵さん、ようこそ元気そうな顔で安心しました。毎年、年賀状を頂きながら返事も出さずごめんなさい。久しぶりに実家に甘えていって下さい。

斎藤会員: 楠本さんようこそ！元気な顔が見られてうれしいです。封筒が新しくなりました。寄付の方もたまにはよろしくお願いします。

三角会員: 先週欠席しました。誕生祝に感謝。高瀬さん、银杏、美味しく頂き、ご馳走様でした。

上田幹事: 都合により早退させていただきます。

坂井会員: 楠本さんようこそ。卓話楽しみです。19日クリスマス会お待ちしております。

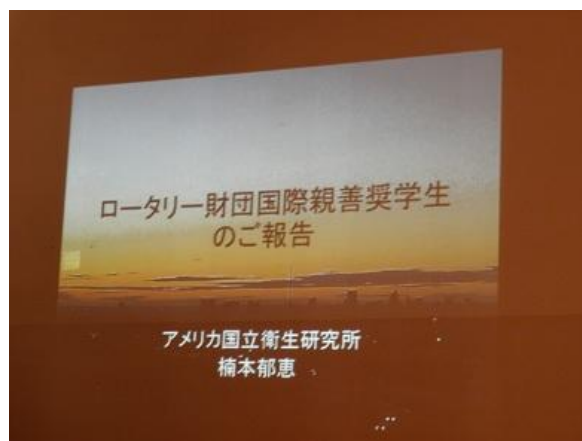
山本会員: 楠本さん、ようこそ！お久しぶりです。又、アメリカでの研究、頑張ってください。

中島会員: 封筒が新しくなりましたね。楠本さんようこそ、この後卓話よろしくお願いします。



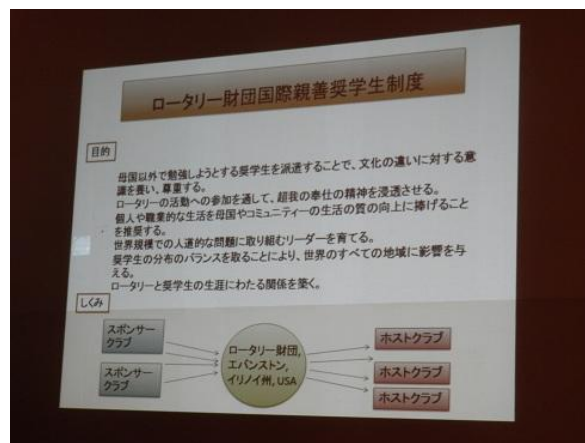
ゲスト卓話「R財団国際親善奨学生の報告」

2010-2011 年度国際親善奨学生 楠本郁恵さん



楠本さん: (風景の映像を提供して) この景色は私が勤務するボルチモアの研究所から夕方に見渡した見晴らしのよい最も好きな風景の1つ。今回は、2年振りの浦島太郎なみの帰国。アメリカのスマートフォンが日本では使えず、友人や家族との連絡ができない。電車の乗り継ぎも分からない。もっと事前の下調べの必要性を痛感し、後悔している。なんとか井波まで辿り着いた。

2010年11月に、ロータリー奨学生としてボルチモアに渡った。申請は1年間のプログラムであったので、本来は1年後の昨年に帰国して事後報告をしなければならないのに、もう2年目となり失礼した。この卓話内容のことで事前に斎藤さんより国際親善奨学生のことやロータリー財団のことに触れていただけたらとの希望もあったので考慮したい。ロータリーの国際親善奨学生は受け入れ先の国で10か所以上のRCでのスピーチを義務付けられている。奨学金制度のことにも触れながら、今回は日本語でスライド作成をしてきた。





出国前、ロータリー奨学生についての知識を全部ではないが事前勉強して行った。実際に行って経験から学ぶしかないと思いつつも、アメリカでも日本のロータリーについて説明できるように努めた。このように研究内容の勉強も大切だがロータリーの学習も欠かせなく、研究を通じてロータリーに還元できることはないか、ということも心に留めていた。(1分くらい小声と機械のため聞き取り不可能) 私は井波庄川RC、今は東となみRCを窓口としたロータリー財団からの派遣だが、受け入れ先のホストは国際ロータリー7620 地区、ボルチモアにある。この地域はアメリカ東海岸にあり、ニューヨークの南側、閑静な住宅街の Townsontowne というRC。カウンセラーはそこのRC。まず、目的にあった生活が大切なので、物価の違いを身に付けること。それにRC会員とのつながりを構築すること。そこで、私には友人ができるかという不安もあった。私が居る研究所は薬物依存が主な研究対象。狭く言うと脳の研究、特化するとドーパミンの研究。研究生活を通して日本人、日本文化や日本人のものの考え方を知って欲しいという希望も持ち続けていた。逆にアメリカ文化も知る努力をした。私の研究所の構成員は多国籍なので、多くの国の文化を知れる機会でもあり、その方々や特に奨学生とも仲良しになれるように務めた。(友人とのスナップ映像を見せて) この方々は私の友人。ボルチモアのRCは3人の奨学生を受け入れていた。1人の男性は日本人で大阪からの派遣。女性は韓国人のアレックス。正規の韓国名を持っているが、発音しにくいので、アレックスという英語名を持ち、われわれはアレックスと呼んでいる。彼女も大阪からの派遣で、車で1時間ほどのワシントンDCに住んで居

る。ロータリー奨学生には、RCへの訪問という決まりがあり、この実現には彼らは大事な相談相手である。一緒に1つのRCを訪問したり、興味のある活動に誘ってくれたり、互いに支えながら生活している。皆、同じ研究室に居る仲間であり、研究や生活面でも助け合っている。幸いホストの方々とも上手く行っている。(夫婦の映像を提供して) 受け入れ先のRCのカウンセラー【スライドでは、Mentor：指導者・助言者と表記】はニール・ヤングという方。この横の女性はニールの奥さん。つまり2人は夫婦。この2人がロータリー活動に連れていってくれたり、たまに家族のパーティに呼んでくれたりすることがある。びっくりしたことには、ニール夫婦ともロータリアンだが、所属するRCは違う。ニールの奥さんのナンシーはアクティブで、所属RCの会長。私は英語が流暢でないので、ナンシーはゆっくり対応してくれ、コミュニケーションはなんとかとれた。研究の方も指導者に恵まれ、細かい指導をしてくれる仲間も居る。幸いなんとかやって居る。

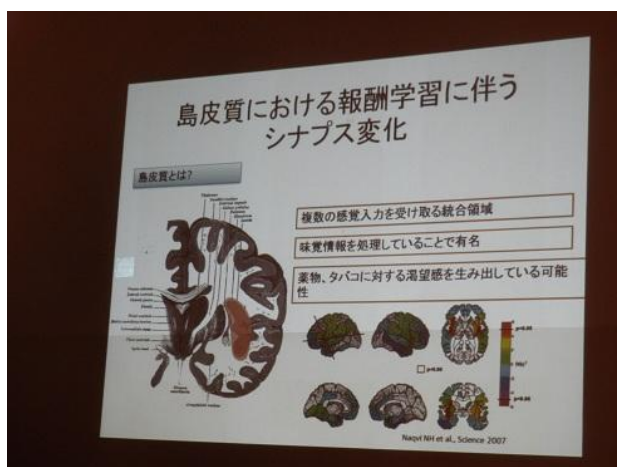
ボルチモアは小さいメリーランド州にある。ボルチモアも大きくはない。電車便があり、バス便もある。バス便は南砺市よりは本数は多いが時間に信頼性が無いので余り遠出はできない。近くにアナポリスという全米海軍の学校の町がある。そこで教授を勤める方にロータリアンが居られ、私がロータリー活動に参加するとき親切にも迎えに来て貰える。

ボルチモアの西北側半分は林や森となり、昔は恐竜が居たとも言われる。クリスマスパーティのようにホリディパーティなどにも参加した。RC訪問の目的は、活動のサポートやこれによってRCを知ること。RCの活動は多角的で、東南アジアやアフリカなどの貧しい人たちやその地域に救急車、女性の乳癌検査のためのマンモグラフィ車の贈呈とか、給水施設の設置などを手掛けている。アメリカ人は様々な国から来ており、ロータリアンの出身国も様々なので、支援対象の国々や必要な物品などが分かりやすいという特徴がある。

この話を聞いたときすごいなとも思ったが、足元のボルチモアには貧しい人たちや薬物依存症など社会適応していない人が多い。例えば白人と黒人との差別など。ロータリーの海外援助は素晴らしいが、目の前に困った人が居るのになぜ助けられないのか、と矛盾をも感じた。このことを

ホストに言ってみたら、実はしていたのだ。その1つ。歯医者さんの活動を紹介してくれた。アメリカでは歯科治療はカネがかかる。貧しい人は保険も入れないから、そんな方に簡易な歯科治療を施す活動。オークションパーティを通して資金を生み出し、この分を冬期間の貧しい人たちや子どもたちに服や毛布を寄贈するという地元支援など。他に感動したことは、チルドレンズ・ギルドという公的支援を受けていない学校への援助。この学校は薬物依存の親の子どもや自閉症、感情障害など成長に必要な大人の支援がうけられない、一般の学校に不適応な子どもたちのための施設。日本の養護学校とは少し違う。育児放棄などはこれまでの自分の生活では考えられもしなかった。施設の子どもたちは大人の言うことを聞かないので根気強い教育が必要とされる。学校の壁には援助者と被援助者の名前が張られている。でも中には成長して大学進学を志す子どももあらわれる。こんな子どもたちを助ける研究は私にはまだできないが、研究に対するやる気を強めてくれる。

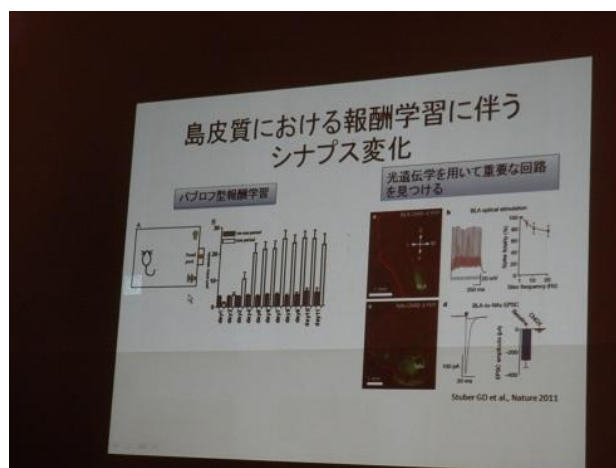
研究所の狙いは薬物依存の撲滅。これは日本ではほとんど進んでいない。日本は基礎研究に終わる嫌いがあり、アメリカの薬物依存などの研究方法とは距離があるように感じる。アメリカはもっと複合的な視点でのアプローチが多い。私が進めている動物実験では人間と同じ薬物依存のモデルを動物でつくらないといけない。また遺伝的になりやすい因子がないのかという多角的な研究も手掛けている。研究所では少人数でも研究遂行できる体制となっている。



とう

最後に私の研究を紹介する。脳の奥にある島皮質の研究。この脳領域は脳卒中、脳梗塞やタバコや薬物に係ると

きに活動するという研究報告があった。タバコや薬物依存は病気ではあるが、もっと一般的にこの脳領域は食べ物に欲しい、何か欲しいという衝動や感覚に係っているのではないかということ。マウスでの実験では音と光の刺激の提示の時のみ餌を与えるという実験。これをマウスにくりかえし学習させることによって、音と光の刺激のみで餌が欲しいという行動をあらわすようになる。これを最先端技術の光データに置き換え、このことから島皮質の活動を変化させられるのではないかというデータを取っている。



1人の研究者としてまだまだ未熟だが、ようやく現地で研究推進できるようになったばかり。しかし、ロータリーが目指していることとは、まだ隔たりがあるので、今後は研究とロータリーの方向とのつながりを見つけて行きたい。

